

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | |
|--------------------------------------|-----|-------------------|--------------------------------|----------------------|--|---------------------------|--------------|----------------------------|--------|--------|--------|----------------------------|-------------|---------------------------|------------------|--------|-------------------|---|------------------------|---|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 (千円) | | | | | | | 予算額 (千円) |
| I-1-(2)-⑤ 子どもの特性 を伸ばす教育 の充実 | 1 | ④ ⑰ | 博物館セカンド スクール事業 | 自然史・歴史 博物館普及課 | 博物館を第二の 学校と位置づけ、 修学旅行・社会見 学など学校教育の 一環として、子ど もたちの博物館利 用の促進を図る。 | 学校団体誘致数 | 目標 | 1,000 | 団体 | 1,000 | 団体 | 1,000団 体以上 (毎年 度) | 1,685 | 1,143 | 1,186 | 16,075 | 順調 | 積極的な誘致活動を行うと ともに、コロナ禍に伴う入館 等の制限緩和により、学校団 体誘致数、学校関係入館者数 ともに著しく回復・増加した ため、「順調」と判断。 | 順調 | 博物館を第二の学校として 位置づけ、子どもたちの学習 意欲を喚起するなど、学校教 育支援をさらに推進する。 また、文学館については、 企画展やイベントの実施、周 辺施設との連携等により来館 者やリピーターの増加を図 る。 |
| | | | | | | | 実績 | 1,116団 体 (H24年 度) | 379 | 団体 | 707 | | | | | | | | | |
| I-1-(3)-② 家庭教育支援 の充実 | 2 | ④ ⑰ | 文学館普及研 究費 | 文学館 | 北九州市ゆかり の文学者の業績を 企画展等で紹介す るとともに、本市 の文芸の振興に功 績のあった文学者 を市内外に発信す る。 | 入館者数 | 目標 | 30,000 | 人 | 30,000 | 人 | 30,000 人 (毎年 度) | 15,592 | 22,486 | 20,575 | 30,950 | 順調 | 家族向けの企画展を開催 し、過去最高の入館者数を達 成するとともに、目標を上 回ったため、「順調」と判 断。 | 順調 | 【評価理由】 コロナ禍であったが、開催 方法を工夫して実施した結 果、アンケート満足度の目標 を達成した。 また、オンラインで学べる ウェブ漫画を配信し、子育て 支援に関する情報発信を行っ た。 以上のことから、「順調」 と判断。 【課題】 市民センターが核となっ て、家庭・地域・学校を連携 させる仕組みを充実する必要 がある。 また、家庭教育について学 ぶ機会の充実のため、家庭教 育学級の開催方法や情報発信 方法について、検討する必要 がある。 |
| | | | | | | | 実績 | 10,741 人(H23 年度) | 17,641 | 人 | 31,137 | | | | | | | | | |
| I-1-(3)-② 家庭教育支援 の充実 | 3 | ③ ④ ⑪ ⑰ | 家庭・地域・ 学校パート ナーシップ事 業 | 生涯学 習課 | 家庭教育学級や 子育てサポーター などの活動を通じ て、保護者の不安 を軽減するため、 関係機関や関係部 局と連携しながら 、情報提供、啓 発活動を行い、保 護者が家庭教育に ついて学ぶ機会の 充実、子どもの基 本的生活習慣定着 への理解を促すた めの情報提供、啓 発活動を進める。 | 家庭教育学級長向 けアンケート満足 度 | 目標 | 85 | % | 85 | % | 85% (毎年 度) | 5,614 | 5,150 | 3,338 | 9,150 | 順調 | 新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため、活動が制限 される中、動画配信や資料配 布など工夫して実施した結 果、アンケート満足度の目標 を達成した。 また、オンラインで学べる ウェブ漫画を配信し、子育て 支援に関する情報発信を行っ た。 以上のことから、「順調」 と判断。 | 順調 | 多様な方法で家庭教育学級 を開設できるよう環境整備を 図る。 併せて市民センターを核と した家庭教育学級のあり方や 情報発信について、関係者へ のアンケートなどをもとに検 討を行う。 |
| | | | | | | | 実績 | — | 71.7 | % | 91 | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 | | 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 | | | | | | | | | | 【Action】 改善 | | | | | | |
|-----------------------------------|-----|---------------------------------|-----------------------------|----------------------|--|---------------------|--------------------|---------------|------------------------|----------|--------------------|-------------|-------------|--|------------------|--|---|--------------|--|---|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 (千円) | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) | | | | | | | |
| I-1-(3)-③ 地域全体が教育を支える社会の実現 | 4 | ③ ④ ⑪ ⑰ | 家庭・地域・学校パートナーシップ事業 | 生涯学習課 | 家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部署と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。 | 家庭教育学級長向けアンケート満足度 | — | 目標 | 85 % | 85 % | 85% (毎年度) | 5,614 | 5,150 | 3,338 | 9,150 | 順調 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中、動画配信や資料配布など工夫して実施した結果、アンケート満足度の目標を達成した。 また、オンラインで学べるウェブ漫画を配信し、子育て支援に関する情報発信を行った。 以上のことから、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 コロナ禍であったが、開催方法を工夫して実施した結果、アンケート満足度の目標を達成した。 また、オンラインで学べるウェブ漫画を配信し、子育て支援に関する情報発信を行った。 以上のことから、「順調」と判断。 【課題】 市民センターが核となつて、家庭・地域・学校を連携させる仕組みを充実する必要がある。 また、家庭教育学級に参加できない保護者への取組として、家庭教育力の向上や子育て支援につながる動画を配信するなど、多様な家庭教育学級の開催を検討する必要がある。 | 多様な方法で家庭教育学級を開設できるような環境整備を図る。 併せて市民センターを核とした家庭教育学級のあり方について、関係者へのアンケートなどをもとに検討を行う。 |
| | | | | | | | 実績 | 71.7 % | 91 % | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 | 84.4 % | 107.1 % | | | | | | | | | | | |
| I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供 | 5 | ③ ④ ⑤ ⑪ ⑬ ⑯ ⑰ | 生涯学習活動促進事業 | 生涯学習課 | 各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。 また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。 | 生涯学習市民講座参加者数 | 93,589人 (H25年度) | 目標 | 前年度 (44,429人) 以上 | 前年度以上 | 前年度 以上 (毎年度) | 11,592 | 13,245 | 12,262 | 6,900 | 大変 順調 | 集合形式の講座の再開や、Webの活用など感染拡大防止対策を講じて実施した結果、令和3年度より講座数は増加し、成果指標である参加者数も120%以上の達成率であった。 以上のことから、「大変順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 生涯学習市民講座の参加者数が増え、成果指標の達成率は120%を超えた。 また、生涯学習推進コーディネーターの配置割合は減少したが、目標に対する達成率は60%を超えた。 以上のことから、「順調」と判断。 【課題】 地域に根付いた活動を実施するため、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を増やす必要がある。 また、多様な学習機会を提供するため、オンライン環境整備を進める必要がある。 生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長研修などで、コーディネーターの必要性や人材の見つけ方をさらに周知していくとともに、あり方の検討を行う。 また、コーディネーターの魅力を高めていくため、引き続き資質向上を図る研修等を行う。 | 生涯学習活動促進事業については、地域に根付いた活動を実施するため、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を増やしていく。 また、オンライン環境の整備を進めるとともに、オンラインやWeb動画を活用した講座を実施できるよう市民センター館長・職員等の研修を充実させる。 生涯学習推進コーディネーター配置事業については、市民センター館長研修などで、コーディネーターの必要性や人材の見つけ方をさらに周知していくとともに、あり方の検討を行う。 また、コーディネーターの魅力を高めていくため、引き続き資質向上を図る研修等を行う。 |
| | | | | | | | 実績 | 56,844 人 | 85,836 人 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 | 127.9 % | 151.0 % | | | | | | | | | | | |
| | | | 生涯学習活動に関する満足度 | 96.3% (H25年度) | 目標 | 95 % | 95 % | 95% (R7年度) | 6,016 | 6,686 | 2,848 | 3,650 | 順調 | 生涯学習推進コーディネーターの配置割合は減少したが、目標に対する達成率は60%を超えた。 以上のことから、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 生涯学習推進コーディネーターの配置割合は減少したが、目標に対する達成率は60%を超えた。 以上のことから、「順調」と判断。 | | | | |
| | | 実績 | 75.5 % | 93.4 % | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 達成率 | 79.5 % | 98.3 % | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | ④ ⑪ ⑰ | 生涯学習推進コーディネーター配置事業 | 生涯学習課 | 多様化・高度化する市民の学習要求に応え、生涯学習事業の充実及び学習の促進を目的に、全市民センターに生涯学習推進コーディネーターを配置する。 | 生涯学習推進コーディネーターの配置割合 | 56.2% (H25年度) | 目標 | 60 % | 60 % | 60% (毎年度) | 6,016 | 6,686 | 2,848 | 3,650 | 順調 | 生涯学習推進コーディネーターの配置割合は減少したが、目標に対する達成率は60%を超えた。 以上のことから、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 生涯学習推進コーディネーターの配置割合は減少したが、目標に対する達成率は60%を超えた。 以上のことから、「順調」と判断。 | |
| | | | | | | 実績 | 50.8 % | 36.9 % | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成率 | 84.7 % | 61.5 % | | | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| | | 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | | |
|--|---------------------------------|---------------------|-----------------------------|--|---|----------------------------|----------------------------------|----------------|-------------------------|------------------------|-------------|--------------------------|-------------|---------------------------|---|-------|--|--|------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 (千円) | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) | | | | | | |
| I-3-(2)-① 地域活動 を リード する 人材の 育成 | 7 | ④ ⑪ ⑰ | 北九州市民カ レッジ事業 | 生涯 学習 総合 センター | 市民の多様な学 習ニーズに対応し た生涯学習機会を 提供し、自己実現 の促進および「循 環型生涯学習社 会」を担う人材の 育成を図る。 北九州市民カ レッジの講座は、 生涯学習総合セン ター主催コース(ま ちづくり・人材育 成系、総合・教養 系の2コース)と高 等教育機関提携 コースを前期・後 期の2期で実施。 | 受講者数 | 1,682人 (H30年 度) | 目標 1,530 人 | 実績 1,700 人 | 1,700人 (毎年 度) | 3,292 | 4,438 | 4,013 | 20,700 | 順調 大学等の高等教育機関との 連携を図るなど事業の質を確 保しながら、多様化する課題 に対応した講座を行い、講座 数の達成率は91.7%、受講者 数の達成率は63.6%となっ た。 以上のことから、「順調」 と判断。 | 順調 | 【評価理由】 生涯学習市民講座の参加者 数が増え、成果指標の達成率 は120%を超えた。 また、「地域活動をリード する人材が増加していると感じ る」に肯定的な回答をした 人の割合についての達成率は 92.6%だった。 北九州市民カレッジ事業に ついては、円滑な運営、市民 の多様な学びの場の提供が出 来ているため総合的に勘案 し、「順調」と判断。 【課題】 地域に根付いた活動を実施 するため、地域の実情を反映 し、地域課題の解決につな がる講座を増やす必要がある。 また、多様な学習機会を提 供するため、オンライン環境 整備を進める必要がある。 さらに、市民センター館長 を対象に、地域活動やボラン ティア活動に取り組む人材の 発掘や、活動の場の提供に繋 げるための研修を実施する必 要がある。 北九州市民カレッジ事業に ついては、さらに多様な学び の場を確保するため、引き続 き高等教育機関との連携が求 められる。 | 地域に根付いた活動を実施 するため、地域の実情を反映 し、地域課題の解決につな がる講座を増やしていく。 また、オンライン環境の整 備を進めるとともに、オンラ インやWeb動画を活用した講 座を実施できるよう市民セン ター館長・職員等の研修を充 実させる。 地域活動をリードする人材 を発掘・育成し、活動に繋げ るため、学習者の意向をきめ 細やかに把握し、活動につな げるための仕組みづくりなど の支援を行う。 | |
| | | | | | | | | 達成率 52.2 % | 63.6 % | | | | | | | | | | |
| 8 | ③ ④ ⑤ ⑪ ⑬ ⑯ ⑰ | 生涯学習活動 促進事業 | 生涯学習 課 | 各市民センター 等で、地域課題や 現代的課題等の解 決を目指す講座、 心と体の健康づく りを目指す講座な ど幅広い分野にわ たる講座を実施す る。 また、それぞれ の地域の特色を生 かし、家庭・地 域・学校が連携し て、子どもたちに 様々な体験活動や 世代間交流の機会 を提供し、地域ぐ るみで子どもを見 守り育てる意識を 高め、地域全体で 子どもの健全育成 に取り組む機運を 醸成する。 | 生涯学習市民講座 参加者数 | 93,589 人 (H25年 度) | 目標 前年度 (44,429 人) 以上 | 実績 56,844 人 | 85,836 人 | 前年度 以上 (毎年 度) | 11,592 | 13,245 | 12,262 | 6,900 | 大変 順調 コロナ禍においても、Web を活用するなど、様々な感染 拡大防止対策を講じて実施し た結果、令和3年度より講座 数は増加し、成果指標である 参加者数も120%以上の達成 率であった。 以上のことから、「大変順 調」と判断。 | | | | |
| | | | | | 生涯学習活動に関 する満足度 | 96.3% (H25年 度) | 目標 95 % | 95 % | 95%以 上 (R7年 度) | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 実績 75.5 % | 93.4 % | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 79.5 % | 98.3 % | | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | |
|------------------------------|-----|-------------------|-----------------------------|----------------------|---|--|-------------------|------|----------|----------|------------------|----------|-------------|---------------------------|------------------|-------|--|--|-------------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 （千円） | | | | | | |
| | 9 | | ④ 地域課題解決のための人材活用支援事業 | 生涯学習課 | 地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、地域人材の発掘～育成～活動までを体系的に支援し、地域力アップにつなげる仕組みをつくる。 また、学んだ成果を地域に活かす講座の開催、地域活動をリードする人材育成事業（市民センター館長等研修など）及び多様な機関との連携強化を実施する。 | 「地域活動をリードする人材やボランティア活動に取組む人材が増加していると感じる」に肯定的な回答をした割合 | 37.6% (H27年度) | 目標 | 35 % | 35 % | 50% (R7年度) | 178 | 540 | 262 | 5,400 | 順調 | 令和3年度に引き続き、人材マッチング事業や市民センター館長研修を実施するなど、地域活動をリードする人材育成に取り組んだ結果、目標に対する達成率は92.6%であった。 以上のことから、「順調」と判断。 | | |
| I-3-(2)-② 地域を支えるボランティアの育成 | 10 | | ④ NPO・市民活動促進事業 | 市民活動推進課 | 市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。 | サポートセンター利用者数 | 29,293人 (R1年度) | 目標 | 20,000 人 | 20,000 人 | 20,000人 (毎年度) | 16,939 | 17,434 | 16,524 | 19,725 | 順調 | 令和3年度以前に、緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、大きく減少したサポートセンターの利用者数は回復基調にあり、新規設立NPO法人数も概ね目標を達成した。以上のことから、「順調」と判断。 講座については、引き続きオンライン参加も可能なハイブリッド型として講座実施の維持に努めた。 | 【評価理由】 新規NPO法人数は順調に推移している一方、サポートセンター利用者数は減少傾向が続いているが、事業自体は概ね順調に遂行されているため、「順調」と判断。 【課題】 市民活動の更なる促進のため、新たな活動参加者の掘り起こしとともに、活動する市民活動団体を育成していくことが必要である。 サポートセンター利用者数はコロナ禍以前の水準を目指す。 | 市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。 |
| | | | ④ 消費者啓発の推進 | 消費生活センター | 悪質化・巧妙化する消費者被害を未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育講座等、消費者自身が危機回避や被害にあった場合の適切な対処法を身に付けるための各種事業を実施するなど、啓発の推進や支援を行う。 | 消費生活センターの認知度 | 92% (H23年度) | 目標 | 90 % | 90 % | 90%以上 (毎年度) | 9,958 | 11,755 | 10,204 | 8,075 | 順調 | 消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がともに9割を超えており、高い数値を維持しているため、「順調」と判断。 | | |
| II-1-(1)-② 市民の消費生活の安定と向上 | 11 | | ④ 消費者啓発の推進 | 消費生活センター | 悪質化・巧妙化する消費者被害を未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育講座等、消費者自身が危機回避や被害にあった場合の適切な対処法を身に付けるための各種事業を実施するなど、啓発の推進や支援を行う。 | 消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合 | 91.5% (H26年度) | 目標 | 90 % | 90 % | 90%以上 (毎年度) | | | | | 順調 | 消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がともに9割を超えており、高い数値を維持しているため、「順調」と判断。 【課題】 消費者トラブルが多様化、複雑化している中で、消費者利益の擁護及び増進に関する総合的な施策の推進を図る必要がある。 | 効果的な啓発活動などを実施することで、相談窓口等を周知するとともに、賢い消費者の育成を図り、市民の消費生活の安定及び向上を確保する。 | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 | | 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 | | | | | | | | | | 【Action】 改善 | | | | | |
|---|-----|-------------------|--------------------------|--|---|------------------|--------------------|----------------------|------------------------|--------------------|--------------------|-------------|-------------|---------------------------|------------------|---|---|---|--|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 (千円) | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) | | | | | | |
| II-1-(3)-① 「北九州市安全・安心条例」の制定と安全・安心に関わる施策の推進 | 12 | ① | 日本トップクラスの安全・安心なまちづくり関連事業 | 安全・安心推進課 | 警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活発化、安全・安心な環境の整備などに取り組み、日本トップクラスの安全・安心なまちづくりを推進する。 | 防犯パトロール活動への参加者数 | 14,170人 (H27年度) | 目標 | 前年度比 (45,087人) 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 (毎年度) | 2,735 | 6,929 | 2,398 | 15,900 | 大変 順調 | 「ながら見守り活動」の推進等により、防犯パトロール活動参加者が増加していることに加え、「住んでいる地域が安全だ」と思う市民の割合は86%と令和3年度に比べて増加したことから、「大変順調」と判断。 | | |
| | | | | | | | 実績 | 47,538人 | 70,619人 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 | 105.4% | 148.6% | | | | | | | | | | |
| 13 | ① | 子どもと女性の犯罪被害防止対策事業 | 安全・安心推進課 | 子どもや女性の犯罪被害を防止するため、子ども自身や子どもを見守る保護者、女性を対象とした安全セミナー等を開催し、防犯意識や知識の向上を図る。 | 「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校 | 35校 (H25年度) | 目標 | 前年度比 (87.2%) 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 (毎年度) | 2,497 | 2,886 | 1,942 | 15,900 | 順調 | 新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、「安全セミナー」及び「地域安全マップづくり」が円滑に実施でき、性犯罪認知件数も維持できたことから、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 市民の体感治安は令和3年度に比べ、増加しており高い水準を維持している。 また、安全・安心なまちづくりにおけた各種取組を推進した結果、令和3年度と比べ、防犯パトロール活動参加者は増加し、性犯罪認知件数は8割以上の達成率となったため、「順調」と判断。 【課題】 体感治安の向上に向けて、安全・安心に関する取組のさらなる情報発信が必要である。 | 県警察との連携や、安全・安心指導員による「地域の生活安全パトロール隊」へ犯罪情報を提供し、より地域の実情に沿ったパトロール活動を促進するなど、警察・地域が一体となった防犯施策を実施する。 また、体感治安のさらなる改善に向けて、安全・安心なまちづくりの取組を促進するとともに、市内外へ本市の治安改善状況を積極的に発信する。 安全・安心総合相談ダイヤル事業は、市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付け、市民の相談機会の充実を図るものであるため、継続して事業を実施していく。 |
| | | | | | | 実績 | 159校 | 190校 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成率 | 85.9% | 88.4% | | | | | | | | | | | |
| 14 | ① | 安全・安心総合相談ダイヤル事業 | 安全・安心推進課 | 市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付ける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。 | 安全・安心総合相談ダイヤルの認知度 | 22% (H27年度) | 目標 | 前年度比 (52件) 減 | 前年度比減 | 前年度 比増 (毎年度) | 18,247 | 19,178 | 17,454 | 15,900 | 順調 | 安全・安心総合相談ダイヤルについて、令和3年度と同程度の相談件数となっており、円滑に運営できているため、「順調」と判断。 | | | |
| | | | | | | 実績 | 51件 | 51件 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成率 | 101.9% | 100.0% | | | | | | | | | | | |
| 14 | ① | 安全・安心総合相談ダイヤル事業 | 安全・安心推進課 | 市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付ける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。 | 安全・安心総合相談ダイヤルの認知度 | 22% (H27年度) | 目標 | 前年度比 (36.1%) 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 (毎年度) | 18,247 | 19,178 | 17,454 | 15,900 | 順調 | 安全・安心総合相談ダイヤルについて、令和3年度と同程度の相談件数となっており、円滑に運営できているため、「順調」と判断。 | | | |
| | | | | | | 実績 | 31.8% | 30.7% | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成率 | 88.1% | 96.5% | | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | | | | |
|-----------------------|-----|-------------------|-----------------------------|---|---|----------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------|--------------------------|-------------|-------------|-------------|---------------------------|---|---|---|---|---|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 （千円） | 予算額 （千円） | 決算額 （千円） | | | | | | |
| II-1-(3)-② 防犯活動の強化 | 15 | ⑤ | 地域防犯対策 事業 | 安全・ 安心 推進 課 | 北九州市安全・ 安心条例では、 「市民等は安全・ 安心に関する意識 を自ら高め、行動 すること」「市及 び市民等は相互に 連携を深め、防犯 活動を協力して推 進すること」と定 められている。こ の事業では、市民 の防犯意識を高 め、地域住民の自 主防犯活動を促進 し、安全・安心を 実感できるまちの 実現を図る。 | 街頭犯罪件数 | 6,612件 (H25年) | 目標 前年比 (2,019件) 減 | 前年比減 | 前年比 減 | 22,638 | 28,841 | 25,056 | 15,900 | 順調 | 「ながら見守り活動」の推 進等により防犯パトロール活 動参加者が増加していること から、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 安全・安心なまちづくりに むけた各種取組を推進した結 果、防犯パトロール活動参加 者が増加するなど、各事業が 8割以上の達成率となったた め、「順調」と判断。 【課題】 体感治安の向上に向けて、 安全・安心に関する取組のさ らなる情報発信が必要であ る。 | 県警察との連携や、安全・ 安心指導員による「地域の生 活安全パトロール隊」へ犯罪 情報を提供し、より地域の実 情に沿ったパトロール活動を 促進するなど、警察・地域が 一体となった防犯施策を実施 する。 |
| | | | | | | | 実績 2,183 件 | 2,296 件 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 91.9 % | 94.8 % | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 市民が感じる治安 状況（体感治安） | 73.7% (H27年 度) | 目標 前年度比 (87.2%) 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 (毎年 度) | 32,849 | 64,197 | 33,336 | 3,435 | 順調 | 防犯灯の設置（LED化）が 進み、刑法犯認知件数や市民 が感じる治安状況が概ね目標 を達成していることから、 「順調」と判断。 | | | |
| | | | | | | | 実績 84.1 % | 86 % | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 96.4 % | 102.3 % | | | | | | | | | | | |
| 16 | ⑩ | 防犯灯設置事 業 | 安全・ 安心 推進 課 | 夜間における犯 罪の発生を未然に 防止し、公衆の通 行の安全を図るた め地域と市が協力 しながら、防犯灯 を設置。 防犯灯の設置に あたっては、LED防 犯灯の設置促進を 図り、町内会等の 地域の防犯灯の設 置のため費用の一 部を助成し、明る く安心して生活で きるまちづくりを 推進。 | 刑法犯認知件数 | 9,682件 (H27年) | 目標 前年比 (5,145件) 減 | 前年比減 | 前年比 減 (毎年) | 32,849 | 64,197 | 33,336 | 3,435 | 順調 | 防犯灯の設置（LED化）が 進み、刑法犯認知件数や市民 が感じる治安状況が概ね目標 を達成していることから、 「順調」と判断。 | 順調 | 防犯灯の設置（LED化）が 進み、刑法犯認知件数や市民 が感じる治安状況が概ね目標 を達成していることから、 「順調」と判断。 | | |
| | | | | | | 実績 5,109 件 | 5,452 件 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成率 100.7 % | 93.3 % | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 市民が感じる治安 状況（体感治安） | 73.7% (H27年 度) | 目標 前年度比 (87.2%) 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 (毎年 度) | 32,849 | 64,197 | 33,336 | 3,435 | 順調 | 防犯灯の設置（LED化）が 進み、刑法犯認知件数や市民 が感じる治安状況が概ね目標 を達成していることから、 「順調」と判断。 | | | | |
| | | | | | | 実績 84.1 % | 86 % | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成率 96.4 % | 102.3 % | | | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | | | | |
|---------------------|-----|-------------------|-----------------------------|----------------------|--|------------------|------------------|------|----------------------|--------------------------|---------------------|----------|-------------|---------------------------|------------------|-------|---|--------------|------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 （千円） | | | | | | |
| 17 | 16 | | 防犯カメラ事業 | 安全・ 安心 推進課 | 暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑止し、市民生活等の安全・安心を確保するため、人が多く集まる繁華街や幹線道路に既に設置している防犯カメラの適正な維持管理を行う。 更に、近年開発が進む駅周辺などに新たに防犯カメラを設置し、適切な維持管理を行う。 | 市民が感じる治安状況（体感治安） | 73.7% (H27年度) | 目標 | 前年度比 (87.2%) 増 | 前年度比増 | 前年度 度比増 (毎年度) | 42,290 | 57,951 | 53,581 | 3,435 | 順調 | 防犯カメラの適正な維持管理のもと、そのデータは有効に活用されており、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が概ね目標を達成していることから、「順調」と判断。 | | |
| | | | | | | | | 実績 | 84.1 % | 86 % | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 96.4 % | 102.3 % | | | | | | | | | |
| | | | | | | 刑法犯認知件数 | 9,682件 (H27年) | 目標 | 前年比 (5,145件) 減 | 前年比減 | 前年比 減 (毎年) | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 実績 | 5,109 件 | 5,452 件 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 100.7 % | 93.3 % | | | | | | | | | |
| 18 | 16 | | 防犯カメラ設置補助事業 | 安全・ 安心 推進課 | 安全・安心条例の施行を機に、地域団体や事業者が犯罪抑止を目的として公共空間を撮影する防犯カメラを設置する際の経費の一部を補助することで、安全・安心な環境の構築に向けたさらなる取組を推進する。 | 刑法犯認知件数 | 9,682件 (H27年) | 目標 | 前年比 (5,145件) 減 | 前年比減 | 前年比 減 (毎年) | 11,394 | 13,720 | 11,014 | 3,435 | 順調 | 最終的な設置台数は目標の50台を超え、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況は概ね目標を達成していることから、「順調」と判断。 | | |
| | | | | | | | | 実績 | 5,109 件 | 5,452 件 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 100.7 % | 93.3 % | | | | | | | | | |
| | | | | | | 市民が感じる治安状況（体感治安） | 73.7% (H27年度) | 目標 | 前年度比 (87.2%) 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 (毎年度) | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 実績 | 84.1 % | 86 % | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 96.4 % | 102.3 % | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | |
|--------------------------------------|----------------------|-------------------|-----------------------------|----------------------|---|--|--------------|---|--------|--------------------------|-------------|-------------|-------------|---------------------------|------------------|--|--|---|------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 （千円） | 予算額 （千円） | 決算額 （千円） | | | | | | |
| II-1-(3)-③ 暴力団 追放運 動の推 進 | 19 | ① | 暴力追放の推 進 | 安全・ 安心 推進 課 | 官民一体とな り、社会全体で暴 力団を排除する取 組を推進するた め、事業者・市民 の暴排意識を高め る市民暴力追放総 決起大会や暴力追 放強調月間による 集中的な啓発活動 などを実施する。 | 暴追対策に対して 評価した市民の割 合 | 目標 | 前年度比 （78%） 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 （毎年 度） | 5,536 | 10,525 | 6,458 | 12,850 | 順調 | 暴追対策に対して評価した 市民の割合は、令和3年度に 比べ増加しており、新型コロナ ウイルス感染症拡大の影響 で各区市民大会等は中止と なったが、全市民的な市民大会 や研修会等は実施できたこと から、コロナ禍以前の水準に 戻りつつあるため、「順調」 と判断。 | 【評価理由】 コロナ禍であったが、市民 大会や研修会、各種広報啓発 事業等を実施し、市民の暴力 団排除機運を高めることがで きたため、「順調」と判断。 【課題】 変化しつつある暴力団情勢 に合わせ、各事業の方向性、 実施方法等を見直す必要があ る。 | 引き続き暴力追放の取組を 推進するとともに、より細や かな民事介入暴力相談、暴力 団離脱・就労相談の実施等、 内容の充実を図っていく。 | |
| | | | | | | | 実績 | 48% （H25年 度） | 79.4 % | | | | | | | | | | 80.8 % |
| 達成率 | 101.8 % | 101.8 % | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 企業における暴力 団排除条項の規定 割合 ※中期目標改訂 （R5年度目標設定 時） | 目標 | R1年度比 （77.7%） 増 （隔年調査 のためR2年 度未実施） | R3年度比増 | R3年度 比増 （R5年 度） | 1,075 | 2,855 | 707 | 4,300 | 順調 | 暴追対策に対して評価した 市民の割合は、令和3年度に 比べ増加しており、コロナ禍 で対応が制限される中でも、 民事介入暴力相談は82回実施 し、目標の80回を達成したた め、「順調」と判断。 | | | |
| 実績 | 55.8% （H25年 度） | 83.8 % | 隔年調査 のため 未実施 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 達成率 | 107.9 % | — | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 | ① | | 民事介入暴力 相談事業 | 安全・ 安心 推進 課 | 市民生活への暴 力団等の介入を排 除し、安全・安心 なまちづくりを図 るため、民事介入 暴力相談を実施。 | 暴追対策に対して 評価した市民の割 合 | 目標 | 前年度比 （78%） 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 （毎年 度） | 1,075 | 2,855 | 707 | 4,300 | 順調 | 暴追対策に対して評価した 市民の割合は、令和3年度に 比べ増加しており、コロナ禍 で対応が制限される中でも、 民事介入暴力相談は82回実施 し、目標の80回を達成したた め、「順調」と判断。 | | | |
| | | | | | | | 実績 | 48% （H25年 度） | 79.4 % | | | | | | | | | | 80.8 % |
| 達成率 | 101.8 % | 101.8 % | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 企業における暴力 団排除条項の規定 割合 ※中期目標改訂 （R5年度目標設定 時） | 目標 | R1年度比 （77.7%） 増 （隔年調査 のためR2年 度未実施） | R3年度比増 | R3年度 比増 （R5年 度） | 1,075 | 2,855 | 707 | 4,300 | 順調 | 暴追対策に対して評価した 市民の割合は、令和3年度に 比べ増加しており、コロナ禍 で対応が制限される中でも、 民事介入暴力相談は82回実施 し、目標の80回を達成したた め、「順調」と判断。 | | | |
| 実績 | 55.8% （H25年 度） | 83.8 % | 隔年調査 のため 未実施 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 達成率 | 107.9 % | — | | | | | | | | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | |
|-----------------------|-----|-------------------|-----------------------------|----------------------|---|------------------------------|------------------|----------------------------|---------------|--------------|-----------------------------|-------------|-------------|---------------------------|------------------|---|--|--|---|------------------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 (千円) | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) | | | | | | | |
| | 21 | ① | 暴力団員の社会復帰対策推進事業 | 安全・安心推進課 | 暴力団の壊滅に向けて、本市に拠点を置く暴力団構成員の「離脱・就労支援対策」を推進し、「日本トップクラスの安全なまち」及び「誰もが安心して暮らせるまち」の実現を図る。 | 「暴力団離脱・就労相談窓口」での相談回数 | — | 目標 10 回 | 実績 9 回 | 10回 (毎年度) | — | 10,000 | 1,251 | 6,550 | 順調 | 令和4年度からの新規事業であったが、9件の相談を受理し、そのうち1件については、補助金を支給するなど、元暴力団員の社会復帰を推進することができたため、「順調」と判断。 | | | | |
| II-1-(3)-④ 交通安全の推進 | 22 | ③ | 交通安全推進事業 | 安全・安心推進課 | 第10次北九州市交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施。 生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図るもの。 | 交通事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント） | 8,325件 (H26年) | 目標 前年比 (4,450件) 減 | 実績 4,074 件 | 3,949 件 | 令和7年 までに 3,300件 以下 | 12,787 | 11,642 | 11,526 | 9,800 | 順調 | 交通事故死亡者数が目標数（18人以下）を2人下回り、交通事故発生件数が目標数（4,074件以下）を下回るなど、いずれも100%を超える達成率のため、「順調」と判断。 | 【評価理由】 交通事故発生件数、自転車関連事故の発生件数は、低い水準を保っており、「順調」と判断。 | 【課題】 交通事故防止事業は、対象を絞って効果的な取組を実施する必要がある。 また、交通安全教育や啓発活動を積極的に行うことにより、交通ルール、マナーの徹底を図る必要がある。 | 引き続き交通事故防止について、子どもから高齢者まで幅広く啓発を行う。 |
| | | | | | | 交通事故死亡者数（警察統計のため暦年でカウント） | 23人 (H26年) | 目標 前年比 (20人) 減 | 実績 18 人 | 16 人 | 令和7年 までに 15人以下 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成率 | 108.4 % | 103.1 % | 110.0 % | 111.1 % | | | | | | | | | | |
| | 23 | ⑤ | 交通安全センター管理運営 | 安全・安心推進課 | 北九州市立交通安全センターを管理するとともに、交通安全教室等を開催し、自転車の安全運転や、交通ルール・マナーの徹底を図る。 | 交通事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント） | 8,325件 (H26年) | 目標 前年比 (4,450件) 減 | 実績 4,074 件 | 3,949 件 | 令和7年 までに 3,300件 以下 | 27,881 | 27,881 | 27,881 | 3,650 | 順調 | 交通事故の発生件数が目標数（4,074件以下）を大きく下回り、自転車関連事故の発生件数も目標数（466件以下）を若干上回ったものの、目標は概ね達成したため、「順調」と判断。 | | | |
| | | | | | | 自転車関連事故の発生件数（警察統計のため暦年でカウント） | 972件 (H26年) | 目標 前年比 (496件) 減 | 実績 466 件 | 495 件 | 前年比 減 (毎年) | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成率 | 108.4 % | 103.1 % | 106.0 % | 93.8 % | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | | | | | |
|---|--------|-------------------|--------------------------------|----------------------|---|---|----------------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------|------------------------|-------------|---------------------------|------------------|-------|---|---|---|--|---|---|----------------------------|------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | | | | | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 (千円) | | | | | | | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) | | | |
| II-1-(3)-⑤ 非行や 犯罪を 生まな い地域 づくり | 24 | ⑤ | 地域防犯対策 事業 | 安全・ 安心 推進 課 | 北九州市安全・ 安心条例では、 「市民等は安全・ 安心に関する意識 を自ら高め、行動 すること」「市及 び市民等は相互に 連携を深め、防犯 活動を協力して推 進すること」と定 められている。こ の事業では、市民 の防犯意識を高 め、地域住民の自 主防犯活動を促進 し、安全・安心を 実感できるまちの 実現を図る。 | 街頭犯罪件数 | 6,612件 (H25年) | 目標 | 前年比 (2,019件) 減 | 前年比減 | 前年比 減 | 22,638 | 28,841 | 25,056 | 15,900 | 順調 | 「ながら見守り活動」の推 進等により防犯パトロール活 動参加者が増加していること から、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 安全・安心なまちづくりに むけた各種取組を推進した結 果、防犯パトロール活動参加 者が増加するなど、各事業が 8割以上の達成率となったた め、「順調」と判断。 【課題】 体感治安の向上に向けて、 安全・安心に関する取組のさ らなる情報発信が必要であ る。 | 県警察との連携や、安全・ 安心指導員による「地域の生 活安全パトロール隊」へ犯罪 情報を提供し、より地域の実 情に沿ったパトロール活動を 促進するなど、警察・地域が 一体となった防犯施策を実施 する。 | | | | |
| | | | | | | | | 実績 | 2,183 件 | 2,296 件 | | | | | | | | | | | 前年度比 (87.2%) 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 (毎年 度) | |
| 達成率 | 91.9 % | 94.8 % | 84.1 % | 86 % | | | | 96.4 % | 102.3 % | | | | | | | | | | | | | | | |
| III-1-(1)-④ 市民の モラル・マ ナーの 向上 | 25 | ① | モラル・マ ナーアップ関 連条例推進事 業 | 安全・ 安心 推進 課 | | 条例や基本計画 に基づき下記事業 に取り組む。 ・小倉・黒崎地区 (迷惑行為防止重 点地区)での巡視 活動(過料の適 用) ・地域が実施する 迷惑行為防止活動 に対する支援 ・小学生を対象と したモラル・マ ナーアップ教育 ・モラル・マナー アップに関する広 報啓発 | 迷惑行為防止に係 る地域活動団体の 増加 | 82団体 (H26年 度) | 目標 | 前年度比 (102団体) 増 | 前年度比増 | 前年度 比増 (毎年 度) | 15,381 | 17,773 | 17,013 | 6,150 | 順調 | 迷惑行為防止重点地区での 巡視・啓発活動回数は令和3 年度と比べ微減となった。ま た、迷惑行為防止に係る地域 活動団体は、令和3年度の団 体数を維持し、路上喫煙率に ついては、小倉地区は増加し たものの、黒崎地区は微減と なるなど、概ね目標に近い実 績を達成したため、「順調」 と判断。 | 順調 | 【評価理由】 迷惑行為防止重点地区での 巡視・啓発活動回数は令和3 年度と比べ微減となったが、 迷惑行為防止に係る地域活動 団体数は令和3年度実績を維 持し、路上喫煙率については、 小倉地区は増加、黒崎地 区は微減となったため、「順 調」と判断。 【課題】 巡視活動の強化や迷惑行為 防止に係る活動の裾野の拡大 のための広報や周知が必要。 | 令和2年度から始まった第3 次計画に基づき、引き続き迷 惑行為防止のための周知・啓 発活動を行っていく。 | | | |
| | | | | | | | | | 実績 | 100 団体 | 100 団体 | | | | | | | | | | | 前年度 (小倉 0.06% 黒崎 0.19%) 以下 | 前年度以下 | 前年度 以下 (毎年 度) |
| | | | | | | | | | 達成率 | 98.0 % | 100.0 % | | | | | | | | | | | 小倉 0.08% 黒崎 0.41% | 小倉 0.14% 黒崎 0.38% | 小倉 66.7% 黒崎 — |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| | | 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | | | |
|---------------------------------------|-----|---------------------|-----------------------------|----------------------|---|----------------------|---------------------|------|-----------|-------------------|-------------------|--------------------------|-------------|---------------------------|------------------|-------|---|--------------|--|--|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 (千円) | | | | | | | 予算額 (千円) |
| Ⅲ-2-(1)-② 地域における 伝統文化の発 掘・継承 | 26 | ① | 文化財保存補 助 | 文化企 画課 | 伝統文化の継承 者や保存団体の活 動を育成・支援す ること、市内の 伝統文化を発掘 し、次世代に継承 していく。 | 指定無形民俗文化 財保存支援団体数 | 16団体 (H26年 度) | 目標 | 17 団 体 | 17 団 体 | 17団体 (毎年 度) | 880 | 1,127 | 910 | 11,050 | 順調 | 保存団体への周知と適切な 協議を行った。 また、新型コロナウイルス 感染症拡大の影響で、当初計 画どおりに事業を実施でき ず、申請金額を返還した団体 もあったが、各団体とも令和 5年度での実施の意欲は高 く、文化財の保存伝承の成果 はあったと考えられるため、 「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 補助制度について文化財保 存団体への周知と適切な協議 を進めることができた。ま た、コロナ禍においても文化 財保存伝承活動を継続してい ることから、「順調」と判 断。 【課題】 新型コロナウイルス感染症 や高齢化の影響で、活動が縮 小している文化財保存団体に 対して、継続的な支援が必要 である。 | 伝統文化の発掘や継承のた め、今後も引き続き文化財保 存団体の活動の強化に資する 補助制度を継続していく。 |
| Ⅲ-2-(2)-① 発信力の 高い文化芸 術の振興 | 27 | ④ ① | 芸術文化活性 化事業 | 文化企 画課 | 【劇場・自主事 業】 エンターテイン メントから芸術性 の高い作品まで舞 台芸術全般を網羅 し、幅広い年代層 をターゲットに公 演を行う。また、 北九州芸術劇場オ リジナルの演劇作 品等を制作し、公 演を実施。 【響ホール・自主 事業】 室内楽専用ホー ルの特性を生かし た質の高いコン サートや響ホール を拠点として地元 演奏家を積極的に 育てるコンサート を行う。また、響 ホールからの発信 を意識した、オリ ジナリティのある 演奏会を実施。 | 北九州芸術劇場・ 自主事業入場率 | 95% (H21年 度) | 目標 | 87 % | 87 % | 87% (R5年 度) | 91,605 | 107,668 | 87,595 | 3,550 | 順調 | 北九州芸術劇場において は、劇場オリジナル作品や話 題性のある良質な作品等の幅 広い年代層を対象とした公演 が提供され、入場率は目標値 に達した。 響ホール事業においても、 国内外で活躍する著名な演奏 家による公演や子どもも楽し めるコンサート等、幅広いラ インナップを揃え、目標値を 上回る入場率となった。 以上、本市の文化振興に寄 与していることから、「順 調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 北九州芸術劇場、響ホール は自主事業の実施により文化 芸術を発信し、目標を達成し た。 北九州国際音楽祭は、高い 満足度を維持している。 映像製作誘致強化関連事業 は、高い認知度を維持し続け ており、また、都市ブランド として「映画の街・北九州」 を広めたいと思う市民の割合 は目標を大きく上回った。 松永文庫は、来場者の目標 を達成できなかったが、令和 3年度と比べ、来館者が増加 した。 以上のことから、「順調」 と判断。 【課題】 北九州芸術劇場、響ホール では、引き続き、高い入場率 につながる魅力的な自主事業 の実施を期待するとともに、 にぎわいづくりにつなげてい くことが重要と考える。 映像製作誘致強化関連事業 は、引き続き、感染予防対策 を徹底し、市民・ロケ地に安 心してもらいながら撮影支援 を行う必要がある。また、今 後の旅行需要のさらなる回復 に向け、いかに知名度のある 海外作品の誘致を行い、本市 の魅力を海外に発信し、イン パウンドを獲得していくかが 重要である。 | 芸術文化活性化事業は、今 後とも発信力が高く、まちの 魅力づくりにつながる事業を 目指して内容を検討し、効率 性や収支の観点も加えなが ら、実施していく。 映像製作誘致強化関連事業 は、インパウンドの回復も見 据え、引き続き国内外の映画 等の大規模作品の誘致・支援 を進めていく。 松永文庫は、企画展を安定 実施するとともに、デジタル アーカイブに関する取組を推 進し、所蔵品の一部をホーム ページで公開するなど、新し いターゲット層へのアプロ ーチを強化し、来場者数が目標 を達成できる取組を継続して いく。 |
| | | | | | 響ホール事業・響 ホール自主事業入 場率 | 56% (H21年 度) | 目標 | 65 % | 65 % | 65% (R5年 度) | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 実績 | 59 % | 76 % | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 90.8 % | 116.9 % | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | |
|---------------------|--------|-------------------|-----------------------------|----------------------|--|------------------|--------------------------|------------------|------------------|----------------|------------------------------|-------------|---------------------------|--------------------------|--------|-------------------|---|------------------------|-------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 （千円） | 予算額 （千円） | | | | | | | 決算額 （千円） |
| 28 | ④ ⑪ | | 北九州国際音楽祭 | 文化企画課 | 地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行う。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、令和4年度で35回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着している。 | 北九州市国際音楽祭の満足度 | 83% (H21年度) | 目標 85 % | 実績 98 % | 達成率 115.3 % | 85% (毎年度) | 13,609 | 40,000 | 34,550 | 1,625 | 順調 | 海外オーケストラやショパン国際ピアノコンクール優勝者等、国内外の一流の演奏家を招き、多くの方に音楽の魅力を届けることができた。加えて、満足度も高い水準を維持しており、本市の文化振興に大きく寄与していることから、「順調」と判断。 | | |
| 29 | ⑧ ⑪ | | 映像製作誘致強化関連事業 | 文化企画課 | 映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。 | 地域経済への貢献（直接経済効果） | 100,000 千円 (H21年度) | 目標 150,000 千円 | 実績 140,826 千円 | 達成率 93.9 % | 150,000 千円 (R1年度以降毎年度) | 16,398 | 27,356 | 25,242 | 32,100 | 大変順調 | 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、新しい生活様式に則った厳格な対策を行いながら、撮影の誘致・支援活動を実施した。これにより、多くの映画作品の誘致を成功させるとともに、タイのアイドルグループのMVや、フィリピンのドラマのファンツアーなど複数の海外作品等を誘致・支援し、経済効果は概ね目標を達成した。また、都市ブランド「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合は目標を大きく上回っている。以上のことから、「大変順調」と判断。 | | |
| 30 | ⑧ ⑪ | | 松永文庫管理・運営事業 | 文化企画課 | 松永文庫が多数所蔵している貴重な映画資料等を活用し、企画展やイベントを実施することで「映画の街・北九州」の魅力発信を行う。 | 年間来館者数 | 89,317 人 (H26年度) | 目標 10 万人 | 実績 1.8 万人 | 達成率 18.0 % | 10万人 (毎年度) | 5,815 | 10,492 | 6,864 | 4,900 | 遅れ | より多くの来館者を目指し、企画展を目標（4回）以上開催するなどして集客を図った結果、令和3年度と比べ、年間来館者数は増加したが、目標は達成しなかったため、「遅れ」と判断。 | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 | | 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 | | | | | | | | | | 【Action】 改善 | | | | | | | |
|---------------------------------|-----|-------------------|-----------------------------|----------------------|---|--|-------------------------|-----------------|-----------------|-----------|------------------------|------------------------|-------------|---------------------------|------------------|--------|--|---|--|--|---|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 (千円) | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) | | | | | | | | |
| III-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進 | 31 | ④ ① | 芸術文化育成 負担金・補助 金 | 文化企画課 | 本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、助成を行う。 | 各種文化事業の実施 | 16事業 (H23年度) | 目標 16 事業 | 実績 16 事業 | 16 事業 | 16 事業 | 16事業 (毎年度) | 40,834 | 40,350 | 39,986 | 5,825 | 順調 | 助成団体数は令和3年と同数であり、各団体の事業は概ね予定どおり実施され、多数の来場があった。 この助成制度によって、地域・市民レベルにおける文化活動を支える一定の効果があつたことから、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 文化団体や市民の活動に対して助成し、市民の文化芸術活動の促進に寄与したことから、「順調」と判断。 【課題】 今後の市民の文化芸術活動等に対する助成については、「北九州市文化芸術活動活性化支援事業」を中心として実施していく。 助成制度は、市民主体の文化芸術活動を促進するものであり、市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興のために、今後も継続する必要がある。 | 今後の市民の文化芸術活動等に対する助成については、「北九州市文化芸術活動活性化支援事業」を中心として実施していく。 |
| | 32 | ④ ① | 北九州市文化 振興基金 | 文化企画課 | 北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行う。 | 北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数 | 27件 (H21年度) | 目標 25 件 | 実績 5 件 | 103 件 | 25件 (毎年度) | 3,596 | 9,800 | 45,433 | 3,825 | 大変順調 | 市内の文化芸術関係者がアフターコロナを見据え、次のステップへと向かう支援を充実させるため、従来の北九州市文化振興基金に加え、同主旨の補助金である「北九州市文化芸術活動活性化支援事業」の財源も活用して内容を充実させた。 その結果、市民の自主的な文化芸術活動を効果的かつ効率的に支援できたことから、「大変順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 文化団体や市民の活動に対して助成し、市民の文化芸術活動の促進に寄与したことから、「順調」と判断。 【課題】 今後の市民の文化芸術活動等に対する助成については、「北九州市文化芸術活動活性化支援事業」を中心として実施していく。 助成の内容や効果を検証しながら、市民が文化に触れることができる事業の実施を推進する必要がある。 | 今後の市民の文化芸術活動等に対する助成については、「北九州市文化芸術活動活性化支援事業」を中心として実施していく。 | |
| III-2-(2)-③ 市民が文化芸術に接する機会の拡大 | 33 | ④ | 美術館企画展 充実事業 | 美術館普及課 | 美術館本館及び分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。 | 美術館の入館者数 | 245,420 人 (H26年度) | 目標 240,000 人 | 実績 126,264 人 | 187,097 人 | 240,000 人 (R5年度) | 104,298 | 118,519 | 111,926 | 36,750 | 順調 | 新型コロナウイルス感染症対策のために、黒崎市民ギャラリーがワクチン接種会場として半年間利用されたため、展覧会の開催数・入館者数が目標を下回ったが、それ以外は概ね順調に開催することが出来たため、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の制限も緩和されていることから、展覧会等の開催回数、入館者数ともに回復傾向にあるため、「順調」と判断。 【課題】 今後も引き続き新規の来館者や団体客、リピーターを増やせるよう、魅力ある特別展や企画展を検討するとともに、市内外に情報を発信していくことにより、来館者の増加につながる施策を実施する。 | これまで美術館に触れる機会の少なかった児童を対象とした「ミュージアム・ツアー」事業や、近隣施設と連携し、来館者の年齢層や個人から家族への来館単位の変化に合わせた企画展を研究する。 | |
| | | | | | | コレクション展の観覧者数 | 11,713 人 (H26年度) | 目標 30,000 人 | 実績 15,805 人 | 28,986 人 | 30,000 人 (R5年度) | | | | | | | | | | |
| | 34 | ④ | 博物館企画展・特別展 充実事業 | 自然史・歴史博物館普及課 | 企画展・特別展は、特定のテーマを設けて自然史や歴史に関する展示を行うことにより、市民が楽しく学べる場を提供し、本市の学術文化の発展を図る。 | 博物館総入館者数 ※中期目標改訂 (R5年度目標設定時) | 369,711 人 (H24年度) | 目標 330,000 人 | 実績 241,736 人 | 450,000 人 | 402,819 人 | 500,000 人 (R5年度) | 48,285 | 63,570 | 59,074 | 74,600 | 順調 | 令和4年度は開館20周年を迎え、展示内容のリニューアル等を実施し、さらに魅力ある博物館としてPRした。また新型コロナウイルス感染症の制限緩和もあり、目標の80%を超えたため、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の制限も緩和されていることから、展覧会等の開催回数、入館者数ともに回復傾向にあるため、「順調」と判断。 【課題】 今後も引き続き新規の来館者や団体客、リピーターを増やせるよう、魅力ある特別展や企画展を検討するとともに、市内外に情報を発信していくことにより、来館者の増加につながる施策を実施する。 | これまで美術館に触れる機会の少なかった児童を対象とした「ミュージアム・ツアー」事業や、近隣施設と連携し、来館者の年齢層や個人から家族への来館単位の変化に合わせた企画展を研究する。 |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----|------------------------|---------------------------------|---|---|---------------------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|---------------------|---------------------|---------------------------|------------------|--------|-------------------|--|--|--|---|---|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | | | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 (千円) | | | | | | | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) | |
| Ⅲ-2- (2)-④ 文化芸術の担 い手の 育成 | 35 | ④ | 美術鑑賞事業 「ミュージア ム・ツアー」 | 美術館普 及課 | 市内の小学3年生 を対象に、美術作 品の鑑賞体験型 のプログラムを作 成し、子どもたち に体験してもらう ことでシビックプ ライドの醸成を図 る。 | 参加校の割合 | 14% (H29年 度) | 目標 | 100 | % | 100 | % | 100% (毎年 度) | 23,039 | 29,214 | 16,142 | 25,650 | 順調 | 令和4年度に予定していた 学校のミュージアム・ツアー は全て開催することが出来た ため、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 実施形態を見直すなどの工 夫・検討を行いながら、次世 代の文化芸術の担い手となる 子どもたちに対し、優れた文 化・芸術に触れる機会を提供 することができた。 また、市民が合唱に親しむ ことのできる機会を提供でき たことなど、施策として総合 的に勘案し、「順調」と判 断。 | 次世代の担い手の育成は非 常に重要な課題であり、シ ビックプライドの醸成という 観点からも、子どもたちや若 者が文化・芸術に接する機会 を拡大していくことが必要で ある。 学校・地域等における教育 普及活動（アウトリーチ）や ホール等の文化施設における 体験活動等、子どもたちの文 化・芸術に接する機会の充実 に向けて、事業内容や実施方 法を検討していく。 |
| | | | | | | | | 実績 | 68.8 | % | 99.2 | % | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 68.8 | % | 99.2 | % | | | | | | | | | | |
| | 36 | ④ ⑪ | 優れた文化・ 芸術との“出 会い”創造事 業 | 文化企 画課 | 将来の文化・芸 術の担い手を育成 し、本市の文化振 興をさらに進め るとともに、シビ ックプライドの醸 成につなげていく ため、若者や子ど もたちを中心に優 れた文化・芸術と の“出会い”の場 ・機会を創造して いく。 | 教育普及事業への 参加者数の増加 | 2,500人 (H27年 度) | 目標 | 2,100 | 人 | 2,100 | 人 | 2,100人 (毎年 度) | 6,571 | 6,757 | 6,610 | 8,725 | 大変 順調 | 放課後児童クラブを対象と したコンサート事業では、令 和3年度に引き続き、新型コ ロナウイルス感染症対策を行 いながら、コロナ禍における イベントのあり方を検討、工 夫し、事業を実施した。 参加者数も目標値を大幅に 上回り、子どもたちが一流の 音楽に触れることのできる機 会を創ったことから、「大変 順調」と判断。 | 【課題】 文化・芸術の担い手を育成 するためには、引き続き市民 が様々な文化・芸術に触れる 機会を確保することが必要で ある。 | | |
| 実績 | | | | | | | | 2,153 | 人 | 2,695 | 人 | | | | | | | | | | | |
| 達成率 | | | | | | | | 102.5 | % | 128.3 | % | | | | | | | | | | | |
| 37 | ④ | 子どもノン フィクション 文学賞 | 文学 館 | 全国の小中学生 を対象に創設した 文学賞。子ども たちが体験した出 来事や取材したこ とを「ノンフィク ション」として書 くことで、人々や 社会への関心を持 つ契機となり、思 考能力や人間とし ての成長を促す。 | 応募総数 | 570件 (H27年 度) | 目標 | 1,000 | 件 | 1,000 | 件 | 1,000件 (毎年 度) | 8,341 | 9,693 | 8,681 | 5,400 | やや 遅れ | 当文学賞は全国各地から応 募があり、受賞作品は全国的 にも評価が高く、広く周知さ れている。しかしながら、応 募総数は令和3年度実績を下 回り、目標を達成できなかった ため、「やや遅れ」と判 断。 | | | | |
| | | | | | | | 実績 | 770 | 件 | 460 | 件 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 | 77.0 | % | 46.0 | % | | | | | | | | | | | |
| 38 | ④ | 林芙美子文学 賞 | 文学 館 | 「放浪記」、 「浮雲」などの作 品で知られ、特に 短編の名手として 評価の高い林芙美 子の名を冠する文 学賞。 多くの文学者、 作家を輩出した北 九州市の豊かな文 学的土壌を全国に 発信するととも に、これから文壇 デビューを目指す 新たな文学の才能 を発掘する。 | 「林芙美子文学 賞」作品応募数 | 484件 (H29年 度) | 目標 | 500 | 件 | 500 | 件 | 500件 (毎年 度) | 7,587 | 10,839 | 9,759 | 4,550 | 順調 | 作品応募数は目標に至らな かったが、令和3年度の実績 を上回った。また、応募作品 が、作品として書き続けてい く力量を持った書き手に絞り 込まれ、選考委員から一定の 評価をいただいていることか ら、「順調」と判断。 | | | | |
| | | | | | | | 実績 | 395 | 件 | 407 | 件 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 | 79.0 | % | 81.4 | % | | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--------|--------------------------|-----------------------------|----------------------|---|-------------------------------|--------------------|------|----------|----------|-----------------|----------|-------------|---------------------------|------------------|-------|---|--------------|--|--|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 (千円) | | | | | | | 予算額 (千円) |
| 39 | ④ ⑪ | | 「合唱の街づくり」推進事業 | 文化企画課 | 市民の歌声があふれる「合唱の街・北九州」の実現に向けて、子どもたちからシニア世代まで幅広い年代の多くの市民が、合唱する側や聴いて楽しむ側として参加するまちづくりを進めていく。 | 合唱関連事業における歌い手としての参加者 | 682人 (H27年度) | 目標 | 250人 | 250人 | 250人 (毎年度) | 0 | 1,000 | 787 | 7,150 | 大変順調 | | | | |
| III-2-(2)-⑤ 文化芸術によるまちづくり | 40 | ④ ⑧ ⑪ | 創造都市推進事業 | 文化企画課 | 「東アジア文化都市北九州」のレガシーを引継ぎ、「市民が文化芸術を身近に感じ、文化芸術を支えるまち」として「創造都市・北九州」の実現を図る。 | 2020年東京大会に向けた文化プログラムの認証件数（累計） | H28年度開始 | 目標 | 20件 | | 20件 (R3年度) | 264,495 | 17,900 | 17,289 | 64,000 | やや遅れ | 【評価理由】 創造都市推進事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、文化芸術を「身近に感じたことがある」と思っている市民の割合が目標に達しなかった。 漫画ミュージアムは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、積極的な広報を控えざるを得ない状況もあり、年間入場者数が目標値の約7割に留まったが、過去2年間と比較すると回復傾向にある。 映像製作誘致強化関連事業は、高い認知度を維持し続けており、また、都市ブランドとして「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合は目標を大きく上回った。 北九州文学サロン及び松永文庫は、来場者の目標を達成できなかったが、令和3年度と比べ、来館者が増加した。 | やや遅れ | 創造都市推進事業は、近年の文化芸術をとりまく環境の変化に対応し、文化政策の方向性を検討していく必要がある。 映像製作誘致強化関連事業は、インパウンドの回復も見据え、引き続き国内外の映画等の大規模作品の誘致・支援を進めていく。 北九州文学サロン管理運営事業は、一層魅力的なイベント等の企画により、来館者増及び来館者の満足度向上を図る。 松永文庫は、企画展を安定実施するとともに、デジタルアーカイブに関する取組を推進し、所蔵品の一部をホームページで公開するなど、新しいターゲット層へのアプローチを強化し、来場者数が目標を達成できる取組を継続していく。 | 創造都市推進事業は、近年の文化芸術をとりまく環境の変化に対応し、文化政策の方向性を検討していく必要がある。 映像製作誘致強化関連事業は、インパウンドの回復も見据え、引き続き国内外の映画等の大規模作品の誘致・支援を進めていく。 北九州文学サロン管理運営事業は、一層魅力的なイベント等の企画により、来館者増及び来館者の満足度向上を図る。 松永文庫は、企画展を安定実施するとともに、デジタルアーカイブに関する取組を推進し、所蔵品の一部をホームページで公開するなど、新しいターゲット層へのアプローチを強化し、来場者数が目標を達成できる取組を継続していく。 |
| 41 | ④ | | 北九州市漫画ミュージアム普及事業 | 漫画ミュージアム事務局 | 北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指す。 | 漫画ミュージアム年間入場者数 | 83,161人 (H27年度) | 目標 | 100,000人 | 100,000人 | 10万人 (毎年度) | 47,090 | 63,392 | 51,092 | 44,000 | 順調 | | | | |
| | | | | | | 文化芸術を「身近に感じたことがある」と思っている市民の割合 | 41.1% (H30年度) | 目標 | 51.1% | 51.1% | 51.1% (R4年度) | | | | | やや遅れ | | | | |
| | | | | | | | | 実績 | 37.5% | 30.5% | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 73.4% | 59.7% | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 目標 | 43.3% | 71.3% | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 実績 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | | | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 | | 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 | | | | | | | | | | 【Action】 改善 | | | | | |
|-----------|--------|-------------------|-------------------------|------------|--|----------------------|--------------------------|---------------------|---------------------|---------------|------------------------------|-------------|-------------|---------------------------|------------------|-------|--|--|------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組 | 主要事業所管課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 （千円） | 予算額 （千円） | 決算額 （千円） | | | | | | |
| 42 | ⑧ ① | | 映像製作誘致強化関連事業 | 文化企画課 | 映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。 | 地域経済への貢献 （直接経済効果） | 100,000 千円 （H21年度） | 目標 150,000 千円 | 実績 140,826 千円 | 達成率 93.9 % | 150,000 千円 （R1年度以降毎年度） | 16,398 | 27,356 | 25,242 | 32,100 | 大変順調 | 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、新しい生活様式に則った厳格な対策を行いながら、撮影の誘致・支援活動を実施した。 これにより、多くの映画作品の誘致を成功させるとともに、タイのアイドルグループのMVや、フィリピンのドラマのファンツアーなど複数の海外作品等を誘致・支援し、経済効果は概ね目標を達成した。 また、都市ブランド「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合は大きく上回っている。 以上のことから、「大変順調」と判断。 | 数が減少し、目標を下回った。 以上のことから、総合的に勘案し、「やや遅れ」と判断。 【課題】 創造都市推進事業は、近年の文化芸術をとりまく環境の変化に対応し、文化政策の方向性を検討していく必要がある。 映像製作誘致強化関連事業は、引き続き感染予防対策を徹底し、市民・ロケ地に安心してもらうながら撮影支援を行う必要がある。また、今後の旅行需要のさらなる回復に向け、いかに知名度のある海外作品の誘致を行い、本市の魅力度を海外に発信し、インバウンドを獲得していくかが重要である。 北九州文学サロンは、多くの市民に来館していただくため、より魅力のある展示、運営等を図っていく。 東田地区ミュージアムパーク創造事業は、観光需要回復に対応し、東田地区内の文化施設等が連携して魅力的な企画を行うことで、より多くの来訪者を取り込む必要がある。 日中詩人会議2022北九州事業は、文芸分野において、北九州市ゆかりの作家を活かした事業を展開することにより、文学の街の魅力の発信が重要である。 | |
| 43 | ④ ① | | 北九州文学サロン管理運営事業 | 文化企画課 | 女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組むとともに、「北九州文学サロン」を拠点として、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組をつなげる仕組みづくりを行う。 | 「北九州文学サロン」の来館者数 | H28年度 開設 | 目標 14,000 人 | 実績 7,245 人 | 達成率 51.8 % | 14,000 人 （毎年度） | 9,982 | 10,437 | 10,067 | 6,400 | やや遅れ | コロナ禍で感染拡大防止に努めながら複数のイベントを計画・実施し、来館者に文学や北九州市にゆかりある作家の魅力を発信することができた。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響は続いており、その影響から来館者数が目標を下回ったため、「やや遅れ」と判断。 | | |
| 44 | ⑧ ① | | 松永文庫管理・運営事業 | 文化企画課 | 松永文庫が多数所蔵している貴重な映画資料等を活用し、企画展やイベントを実施することで「映画の街・北九州」の魅力発信を行う。 | 年間来館者数 | 89,317 人 （H26年度） | 目標 10 万人 | 実績 1.8 万人 | 達成率 18.0 % | 10万人 （毎年度） | 5,815 | 10,492 | 6,864 | 4,900 | 遅れ | より多くの来館者を目指し、企画展を目標（4回）以上開催するなどして集客を図った結果、令和3年度と比べ、年間来館者数は増加したが、目標は達成しなかったため、「遅れ」と判断。 | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | | |
|---------------------|-------------|-------------------|-------------------------|--------------|--|--------------------|--------------------|--------------------------|---------------|---------------|-------------------|--------------------------|-------------|---------------------------|------------------|--|---|--------------|------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組 | 主要事業 所管課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 （千円） | 予算額 （千円） | 決算額 （千円） | | | | | | |
| 45 | ④ | | 松本清張記念館研究センター・普及事業 | 松本清張記念館事務局 | 松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。 さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。 | 松本清張記念館の入館者数 | 58,187人 (H22年度) | 目標 前年度比 (10,453人)増 | 実績 11,973人 | 27,396人 | 前年度比増 (毎年度) | 11,430 | 10,522 | 9,927 | 23,250 | 大変順調 | 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による休館がなく、規制も緩和されたため、入館者数が大幅に増加した。また、入場者の満足度においても令和3年度を上回った（R3：87.9%、R4：88.8%）ため、「大変順調」と判断。 | | |
| 46 | ④ ⑧ ⑩ | | 北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業 | 文化企画課 | いのちのたび博物館を中核に、文化施設や商業施設等が連携し、東田地区を中心に地域の活性化や観光客の誘客に向けた取組を実施する。 | 東田地区の来訪者数（観光客数） | 72.7万人 (H30年度) | 目標 72万人 | 実績 28.5万人 | 集計中 | 200万人 (R6年度) | 16,945 | 6,000 | 6,000 | 9,800 | 遅れ | 博物館において10年ぶりの常設展リニューアルや連携企画展、周遊促進事業を実施するなど、東田地区を中心とした文化観光の推進に取り組んだ。東田地区の文化施設の来訪者数は回復傾向にあるが、インバウンドの回復は途上であり、目標に到達できなかったため、「遅れ」と判断。 | | |
| | | | | | | 東田地区の外国人来訪者数（観光客数） | 約7千人 (R1年度) | 目標 4,000人 | 実績 13人 | 500人 | 10,500人 (R6年度) | | | | | | | | |
| 47 | ④ ⑩ | | 日中詩人会議2022北九州事業 | 文化企画課 | 東アジア文化都市北九州のレガシーとして、また、「文学の街・北九州」のプレゼンス強化と発信、並びに、国を跨いだ交流が再スタートする「ポストコロナ」における新たな言葉の探求などを目的として、北九州市をフィールドに、日本と中国の詩人による対話、出版、並びに、朗読会やトークイベントなどの市民交流事業を行う。 | 日中詩人会議の参加者 | — | 目標 200人 | 実績 106人 | 200人 (毎年度) | — | 5,000 | 4,650 | 11,050 | やや遅れ | コロナ禍で感染拡大防止に努めながらイベントを実施し、参加者に日中の詩の魅力等を発信することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた結果、オンラインを活用するなど、当初の企画内容から変更した影響により、参加者数が目標を下回ったため、「やや遅れ」と判断。 | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 | | 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 | | | | | | | | | | 【Action】 改善 | | | | |
|---|-----|-------------------|---------------------------------|----------------------|---|---|--|---|---------------------------------|------------------------------------|-------------|-------------|---------------------------|------------------|----------|---|--|---|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 （千円） | 予算額 （千円） | | | | | | |
| Ⅲ-2- (3)-① 誰もが 気軽に スポーツに 親しめる 環境づくり | 48 | ③ ④ | 市民スポーツ 大会 | スポーツ 振興課 | 「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催。 | 市民スポーツ大会 選手参加者数 | 30,367 人 (H26年 度) | 目標 21,000 人 実績 18,064 人 達成率 86.0 % | 21,000 人 23,535 人 112.1 % | 21,000 人 (R1年度 以降毎 年度) | 2,736 | 3,574 | 3,574 | 4,650 | 順調 | 多くの市民が参加できる大会の実施を目指すため、市HPなどを活用した積極的な広報に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響などで中止になった大会があるものの、大会競技数が回復傾向にあるため、「順調」と判断。 | | |
| | 49 | ③ ④ | 生涯スポーツ 振興事業 | スポーツ 振興課 | 生涯スポーツの普及・振興のため、各区においてスポーツ教室、ニュースポーツ体験会などを開催。 | 各区における ニュースポーツ及 びファミリース ポーツ大会の参加 人数 | 12,371 人 (H26年 度) | 目標 15,000 人 実績 262 人 達成率 1.7 % | 15,000 人 1,867 人 12.4 % | 15,000 人 (R1年度 以降毎 年度) | 14,675 | 16,506 | 14,961 | 4,400 | 遅れ | 令和3年度と比較して開催行事数・参加者数ともに回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響等で中止となった行事があり、目標未達のため、「遅れ」と判断。 | 【評価理由】 「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するため、参加者数等で回復傾向の事業が見られる中、設定した成果指標の目標を達成できていない事業があることから、総合的に勘案し、「やや遅れ」と判断。 | |
| | 50 | ③ ④ | 総合型地域ス ポーツクラブ 育成・支援事 業 | スポーツ 振興課 | 地域住民の自主的な運営により、身近な地域で様々なスポーツに親しむことのできる総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組む。 | 総合型地域ス ポーツクラブの会員数 | 1,800人 (H22年 度) | 目標 4,000 人 実績 1,830 人 達成率 45.8 % | 4,000 人 1,718 人 43.0 % | 4,000人 (R5年 度) | 2,600 | 2,600 | 2,600 | 2,900 | やや 遅れ | 会員数については微減であり、目標は達成できなかったものの、令和3年度まで中止していた交流行事や勉強会等は実施できたため、「やや遅れ」と判断。 | 【課題】 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、スポーツ大会等の開催数の増加が見込まれることから、より多くの市民が参加できるよう市HP等を活用した積極的な広報に努める必要がある。 また、地域住民が自主的にスポーツの場や機会を創り、地域社会全体のスポーツ環境を形成し、総合型地域スポーツクラブの会員数を増加させる取組を強化する必要がある。 | 「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するため、市民に身近なスポーツ大会の開催から、トップアスリートの育成、生涯スポーツの普及・振興など幅広く事業を展開していく。 |
| | 51 | ③ ④ ① | 夢・スポーツ 振興事業 | スポーツ 振興課 | トップアスリート等の活用により、オリンピック選手など国際、全国大会で活躍する、次世代を担うトップアスリートを育成するとともに、スポーツに対する意欲を醸成する。 | 選手強化事業参加 者数 | 210人 (H26年 度) | 目標 1,000 人 実績 2,004 人 達成率 200.4 % | 1,000 人 2,181 人 218.1 % | 1,000人 (毎 年度) | 6,096 | 9,500 | 8,832 | 7,900 | 大変 順調 | 開催種目数は令和3年度と同数を維持しているが、選手強化事業参加人数は目標を大きく上回ったため、「大変順調」と判断。 | | |
| | | | | | 教室・強化講習会 等の実施 | 5種目 (H26年 度) | 目標 11 種目 実績 8 種目 達成率 72.7 % | 11 種目 8 種目 72.7 % | 11種目 以上 (毎 年度) | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | |
|--|-------------|--------------------------|---------------------------------|---|---|-----------------------|---------------------------|---------------------|------------------|-----------------------------|-------------|-------------|-------------|---------------------------|---|---|-------------------|--|--|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 (千円) | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) | | | | | | |
| III-2- (3)-② スポーツを通 したにぎわい づくり | 52 | ③ ④ ⑧ ⑪ | 北九州マラソ ン開催事業 | 国際 ス ポ ー ツ 大 会 推 進 室 | <p>・コース：北九州 市役所前～東田地 区～戸畑駅前～東 港～門司港～北九 州国際会議場前 ・種目及び参加人 数 マラソン：11,000 名、ペアリレーマ ラソン：150組300 名、ファンラン (3km又は5km)： 1,000名</p> | マラソン大会開催 による経済波及効果 | 10.5億 円 (H25年 度) | 目標 単年度目標 設定なし | 11.5 億 円 | 11.5億 円 (R8年度 までに) | 88,132 | 88,543 | 88,304 | 39,500 | やや 遅れ | <p>コロナ禍での大会開催であ り、感染症予防対策を徹底す るための準備を進め、第10回 大会を開催した。 また、令和2年からの取組 として、（一財）アールビー ズスポーツ財団が開催する 「オクトーバー・ラン& ウォーク2022」に北九州市と して参加し、ランナーへの広 報啓発に努めた。 しかし、台風や新型コロナ ウイルス感染症の影響で、 「スポーツボランティアリー ダー養成講座の実施」は1回 となり、マラソン大会全国評 価ランキングでは23位と目標 を下回ったため、「やや遅 れ」と判断。</p> | 順調 | <p>【評価理由】 新型コロナウイルス感染症 の影響により、ギラヴァンツ 北九州の入場者数や、レトロ マラソンの大会参加者数、ス ポーツ観戦率等が目標に届か なかったものの、国際・全国 大会等の開催数は大幅に改善 し、目標値を大きく上回っ た。また、ギラヴァンツ北九 州の市民認知度及び北九州ス タジアムの利用実績において も目標を達成していることか ら、「順調」と判断。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症 の5類移行により、国際・全 国大会等の開催数の増加が見 込まれることから、円滑な運 営ができるよう適切な支援を 行う必要がある。 また、「ギラヴァンツ北九 州の試合の平均入場者数、ス ポーツ観戦率」が目標に届い ていないことから、今後も北 九州スタジアムをはじめとし る各スポーツ施設を活用し、 「みる」スポーツの更なる振 興を図る必要がある。</p> | 北九州マラソン、門司港レ トロマラソンの安全安心な実 施を目指す。 大会の開催により、市民の スポーツ・健康に対する意識 のさらなる向上を目指す。 また、国際・全国大会の誘 致を含め、大会の開催を推進 することにより、まちのにぎ わいづくりを目指す。 さらに、北九州スタジアム の施設利用をより一層図ると ともに、市民に夢と感動を提 供できる施設として、適切な 維持管理運営を行う。 加えて、ギラヴァンツ北九 州をはじめとした北九州市内 をホームタウン・準ホームタ ウンとするトップスポーツ チームの支援を継続し、「み る」スポーツの更なる振興を 図る。 |
| | | | | | インターネットで のマラソン大会全 国評価ランキング (参加者7,000人 以上の大会を対象) | 9位 (H28年 度) | 目標 1位 | 1位 | 1位 (毎年 度) | 30人 | | | | | | | | | |
| 53 | ③ ④ ⑪ | 国際大会・全 国大会等ス ポーツ開催 | ス ポ ー ツ 振 興 課 | 市内での国際大 会等の開催によ り、「みる」ス ポーツの機会の拡 大を図り、多くの 市民のスポーツへ の関心の向上及び 個々の競技力の向 上等につなげる。 | 国際・全国大会等 の開催数 | 29回 (H26年 度) | 目標 30回 | 30回 | 30回 (毎年 度) | 1,250 | 4,000 | 2,800 | 3,650 | 順調 | <p>新型コロナウイルス感染症 の影響が残る中、参加人数は 目標に満たなかったものの、 3年ぶりに門司港レトロマラ ソンを開催でき、国際・全国 大会等の開催数は大幅に改善 し、目標値を大きく上回った ため、「順調」と判断。</p> | 順調 | | | |
| | | | | 門司港レトロマラ ソンの参加人数 | 3,000人 (H26年 度) | 目標 3,000人 | 3,000人 | 3,000人 (毎年 度) | 28回 | | | | | | | | | 43回 | 30回 (毎年 度) |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | |
|---------------------|-------------|-------------------|-----------------------------|----------------------|--|----------------------|--------------|-------------------|---------|-----------------|-------------|-------------|-------------|---------------------------|------------------|---|-------------------|--------------|------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 （千円） | 予算額 （千円） | 決算額 （千円） | | | | | | |
| 54 | ⑤ ④ ⑪ | | ギラヴァンツ北九州支援事業 | スポーツ振興課 | 本市のシンボルチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、ホームゲーム開催経費や遠征費の一部を補助。 | ギラヴァンツ北九州の市民認知度 | 目標 | 90 % | 90 % | 90% （毎年度） | 40,000 | 40,000 | 40,000 | 3,075 | 順調 | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、「Jリーグ」として入場制限を実施した影響により、ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数は目標の7,000人に届かなかったが、市民認知度は令和3年同様、目標を達成したため、「順調」と判断。 | | | |
| | | | | | | | 実績 | 87% (H26年度) | 95.8 % | | | | | | | | | | 94.7 % |
| | | | | | | | 達成率 | 106.4 % | 105.2 % | | | | | | | | | | |
| | | | | | | ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数 | 目標 | 7,000 人 | 7,000 人 | 7,000人 （毎年度） | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 実績 | 3,622人 (H26年度) | 2,974 人 | | | | | | | | | | 3,613 人 |
| | | | | | | | 達成率 | 42.5 % | 51.6 % | | | | | | | | | | |
| 55 | ⑤ ④ ⑪ | | ホームタウン推進事業 | スポーツ振興課 | 本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「堺プレイゼアーズ」「福岡ソフトバンクホークス」等の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しみきっかけ作りを実施。 | スポーツ観戦率 | 目標 | 40 % | 40 % | 40% （毎年度） | 54,254 | 68,000 | 63,729 | 6,575 | やや遅れ | 本市のシンボルチームであるギラヴァンツ北九州の平均入場者数は、所属するJ3リーグで18チーム中4位と好調であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、親子招待事業等による観戦者数や、スポーツ観戦率が目標に届かなかったことから、「やや遅れ」と判断。 | | | |
| | | | | | | | 実績 | 23% (H26年度) | 14.9 % | | | | | | | | | | 19.9 % |
| | | | | | | | 達成率 | 37.3 % | 49.8 % | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 | | 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 | | | | | | | | | | 【Action】 改善 | | | | | |
|-----------|------------------|-------------------|-----------------------------|---|--|--|-------------------|----------------------------|-------|----------------------------------|-------------------|----------|-------------|---------------------------|------------------|----------|-------------------|--------------|------------------------|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 （千円） | | | | | | |
| 56 | ③ ④ ⑪ | | 大規模国際ス ポーツ大会等 誘致関係事業 | 国際 ス ポ ー ツ 大 会 推 進 室 | 生涯スポーツの 振興やまちの賑わ い創りに繋がる大 規模国際スポーツ 大会の試合会場、 及び2020年東京オ リンピック・パラ リンピック競技大 会を本市に誘致す ること、並びに誘 致前後のスポーツ 交流や文化交流等 へと繋げることを 目的として、誘致 プロモーションの 展開や官民一体と なった「誘致委員 会」による積極的 な活動を行う。 | ラグビーワールド カップ2019及び 2020年東京オリ ンピック・パラリ ンピック競技大会 におけるキャンプ 地誘致数 | — | 目標 オリ・パラ キャンプの 実施 | 4 競技 | 1ヶ国又 は1競技 以上 (R3年 度) | 851,654 | 17,000 | 14,970 | 54,000 | 大変 順調 | | | | |
| | | | | | | 達成率 | — | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 目標 | — | 5 回 | | | | | | | | | | | |
| 56 | ③ ④ ⑪ | | 大規模国際ス ポーツ大会等 誘致関係事業 | 国際 ス ポ ー ツ 大 会 推 進 室 | 生涯スポーツの 振興やまちの賑わ い創りに繋がる大 規模国際スポーツ 大会の試合会場、 及び2020年東京オ リンピック・パラ リンピック競技大 会を本市に誘致す ること、並びに誘 致前後のスポーツ 交流や文化交流等 へと繋げることを 目的として、誘致 プロモーションの 展開や官民一体と なった「誘致委員 会」による積極的 な活動を行う。 | 東京2020オリ ンピック・パラリ ンピック競技大会 のキャンプ地を 本市に誘致する こと、並びに誘 致前後のスポーツ 交流や文化交流等 へと繋げることを 目的として、誘致 プロモーションの 展開や官民一体と なった「誘致委員 会」による積極的 な活動を行う。 | — | 目標 | 6 回 | 5回 (R4年 度) | 851,654 | 17,000 | 14,970 | 54,000 | 大変 順調 | | | | |
| | | | | | | 達成率 | — | 120.0 % | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 目標 | 3 件 | 3 件 | | | | | | | | | | | |
| 56 | ③ ④ ⑪ | | 大規模国際ス ポーツ大会等 誘致関係事業 | 国際 ス ポ ー ツ 大 会 推 進 室 | 生涯スポーツの 振興やまちの賑わ い創りに繋がる大 規模国際スポーツ 大会の試合会場、 及び2020年東京オ リンピック・パラ リンピック競技大 会を本市に誘致す ること、並びに誘 致前後のスポーツ 交流や文化交流等 へと繋げることを 目的として、誘致 プロモーションの 展開や官民一体と なった「誘致委員 会」による積極的 な活動を行う。 | 国際スポーツ大会 等の開催 | 4件 (H27年 度) | 実績 | 2 件 | 6 件 | 3件 (毎年 度) | 851,654 | 17,000 | 14,970 | 54,000 | 大変 順調 | | | |
| | | | | | | 達成率 | 66.7 % | 200.0 % | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 目標 | 3 件 | 3 件 | | | | | | | | | | | |
| 57 | ③ ⑦ ⑧ ⑪ | | 北九州スタジ アム維持管理 事業 | ス ポ ー ツ 振 興 課 | 北九州スタジア ムは、都心部に人 が集い、にぎわい あふれる北九州市 の創出を目指し、 Jリーグやラグビー トップリーグなど の試合、小中高生 のサッカー・ラグ ビー大会、グラウ ンド・ゴルフ大会 、子どもたちへ の芝生開放などに 加え、まちににぎ わいを生み出すイ ベントの開催など 、市民に夢と感動 を提供できる施設 である。 施設の適切な維持 管理・運営を実施 することで、 「みる」スポーツ の機会提供の充実 を図り、スポーツ を通じたまちのに ぎわいを生み出 す。 | 「みる」スポーツ の機会提供の充実 （グラウンドの年 間利用日数） | — | 目標 | 100 日 | 100 日 | 100日 (毎年 度) | 104,251 | 104,251 | 104,251 | 2,750 | 順調 | | | |
| | | | | | | 実績 | 113 日 | 107 日 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成率 | 113.0 % | 107.0 % | | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 | | 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 | | | | | | | | | | 【Action】 改善 | | | | | | |
|-------------------------------|-----|-------------------|-------------------------|----------------------|--|-----------------------------|--------------------|----------------|--------------|----------|---------------------|-----------|-------------|---------------------------|------------------|-------|---|--------------|---|---|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 決算額 （千円） | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 予算額 （千円） | | | | | | | 決算額 （千円） |
| Ⅲ-3-(1)-① 市民主体の地域づくりの促進 | 58 | ⑩ | 地域総括補助金 | 地域振興課 | 各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまで市各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付する。 | 地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数 | 130団体 (H26年度) | 目標 135 団体 | 実績 136 団体 | 136 団体 | 137団体 (R5年度) | 274,863 | 314,980 | 287,519 | 3,825 | 順調 | 補助金の導入協議会数は、目標を達成したことから、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 地域総括補助金導入協議会数は、目標を達成。一方、地域活動への参加の割合は、コロナ禍による活動自粛のため参加機会自体の減少が大きく影響したものと考える。活動自粛は不可避な外的要因であることを考慮し、総合的に「順調」と判断。 | 地域が一体となった住民主体の地域づくりを推進するため、まちづくり協議会や様々な取組を行う各種地域団体に対し、「地域総括補助金」の交付や各種支援事業など、地域ニーズに応じた施策を展開する。 |
| | 59 | ⑩ | 住民主体の地域づくりの促進 | 地域振興課 | まちづくり協議会を中心としたネットワークを構築し、まちづくり協議会が相互に情報を共有し交流できる場を設けるなど、住民主体の地域づくりを進める。 | 地域づくり活動への参加者の割合 | 39.6% (H29年度) | 目標 46 % | 実績 32 % | 29.2 % | 50% (R7年度) | 210 | 2,480 | 1,199 | 3,575 | やや遅れ | コロナ禍により地域活動自体が減少し、地域活動への参加の機会が失われたことにより参加者の割合が減少したと考えられるため、「やや遅れ」と判断。 | 順調 | 【課題】 地域が抱える課題や、その解決に向けた取組の内容は、様々であり統一的な施策による支援が困難であるが、他の事業局や区役所コミュニティ支援課等と連携しながら、地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、住民主体の地域づくりに努める必要がある。 | |
| Ⅲ-3-(1)-② 地域コミュニティ施設の活用・運営 | 60 | ⑩ | 市民センターの維持管理 | 地域振興課 | 市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。 また、地域活動の拠点施設としての機能の維持・向上を図るため、老朽化対策等の改修を計画的に行う。 | 市民センター1館当たりの利用者数 | 32千人 (R1年度) | 目標 42 千人 | 実績 17 千人 | 22 千人 | 42千人 (毎年度) | 2,446,097 | 2,765,842 | 2,740,867 | 46,250 | やや遅れ | 老朽化対策等のハード面の整備は、目標を上回る整備が実施できた。一方、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の緩和により、市民センターの利用者数やコミュニティ活動への参加人数が令和3年度より増えているものの、目標達成率は60%に満たない結果であったため、「やや遅れ」と判断。 | やや遅れ | 【評価理由】 市民センターの老朽化対策等のハード面は目標を上回る整備ができた。一方、市民センターの利用者数やコミュニティ活動への参加人数の目標達成率は60%に満たない結果であったため、「やや遅れ」と判断。 | SNS等によるタイムリーな情報発信や、市民センターに係る手続きのオンライン化などを検討し、利用者増加につなげていく。 また、市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策等のハード面を整備する。 |
| | | | | | | 市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数（延べ） | 2,084千人 (H27年度) | 目標 2,200 千人 | 実績 881 千人 | 1,194 千人 | 2,200千人 (毎年度) | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 | | 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 | | | | | | | | | | 【Action】 改善 | | | | | | | |
|------------------------------|-----|-------------------|-------------------------|------------|--|----------------------|--------------|--------|---|--------|------|------------------|-------------|---------------------------|------------------|--------|-------------------|---|------------------------|---|--|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組 | 主要事業所管課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 (千円) | | | | | | | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) |
| Ⅲ-3-(1)-③ 自治会・町内会への加入促進 | 61 | ① ⑱ | 自治会・町内会活性化の促進 | 地域振興課 | 自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図る。 | 地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合 | 目標 | 85 | % | 85 | % | 85% (毎年度) | 26,578 | 28,784 | 28,630 | 4,095 | 順調 | 地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合及び、地域づくり活動への参加者の割合は、概ね目標を達成できたことから、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 自治会・町内会の加入促進や活性化については、市自治会総連合会と連携しながら自治会の重要性等の広報やマンションへの加入促進の取組等、自治会の課題に対する支援を継続的に取り組んでいる。また、地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合及び、地域づくり活動への参加者の割合は、概ね目標を達成できたことから、「順調」と判断。 【課題】 若い世代への働きかけや、マンション等の自治会加入促進に向けた取組などにより、自治会・町内会の活性化に努めていく必要がある。 | 自治会・町内会を取り巻く課題を解決し、活性化を促進するために、マンションの管理会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き地域コミュニティの重要性や自治会の必要性について幅広く理解を求めることに力を入れていく。 また、ICTを活用することにより、自治会役員の負担軽減及び若い世代の自治会加入促進を図る。 |
| | | | | | | | 実績 | 78.7 | % | 80.9 | % | | | | | | | | | | |
| Ⅲ-3-(2)-① NPO・ボランティア活動の支援 | 62 | ④ ⑱ | NPO・市民活動促進事業 | 市民活動推進課 | 市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。 | サポートセンター利用者数 | 目標 | 20,000 | 人 | 20,000 | 人 | 20,000人 (毎年度) | 16,939 | 17,434 | 16,524 | 19,725 | 順調 | 令和3年度以前に、緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館等により、大きく減少したサポートセンターの利用者数は回復基調にあり、新規設立NPO法人数も概ね目標を達成した。以上のことから、「順調」と判断。 講座については、引き続きオンライン参加も可能なハイブリッド型として講座実施の維持に努めた。 | 順調 | 【評価理由】 新規設立NPO法人数や補助交付事業件数等は、順調に推移しているため、「順調」と判断。 【課題】 さらなる市民活動の支援により、NPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。 サポートセンター利用者数はコロナ禍以前の水準を目指す。 | 市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。 |
| | | | | | | | 実績 | 8,256 | 人 | 9,791 | 人 | | | | | | | | | | |
| Ⅲ-3-(2)-① NPO・ボランティア活動の支援 | 63 | ④ | NPO公益活動支援事業 | 市民活動推進課 | 市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。 | 補助交付事業件数(累計) | 目標 | 130 | 件 | 140 | 件 | 150件 (R5年度) | 2,389 | 2,694 | 2,300 | 3,275 | 順調 | 補助採択事業の事例紹介については、中間報告会を開催し事業周知に努めた。 また、補助交付事業件数は目標を概ね達成したため、「順調」と判断。 | 順調 | さらなる市民活動の支援により、NPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。 サポートセンター利用者数はコロナ禍以前の水準を目指す。 | 市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。 |
| | | | | | | | 実績 | 109 | 件 | 137 | 件 | | | | | | | | | | |
| Ⅲ-3-(2)-① NPO・ボランティア活動の支援 | 63 | ④ | NPO公益活動支援事業 | 市民活動推進課 | 市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。 | 成果発表会の参加人数(累計) | 目標 | 580 | 人 | 630 | 人 | 680人 (R5年度) | 2,389 | 2,694 | 2,300 | 3,275 | 順調 | 補助採択事業の事例紹介については、中間報告会を開催し事業周知に努めた。 また、補助交付事業件数は目標を概ね達成したため、「順調」と判断。 | 順調 | さらなる市民活動の支援により、NPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。 サポートセンター利用者数はコロナ禍以前の水準を目指す。 | 市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。 |
| | | | | | | | 実績 | 431 | 人 | 497 | 人 | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | | | |
|----------------------------------|-----|---------------------|-----------------------------|--|--|--------------------------|------------------|-------|-------|-------|-------|-------------|------------------|---------------------------|------------------|-------|-------------------|--|--|-------------|---|--|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | | | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 (千円) | | | | | | | 予算額 (千円) | 決算額 (千円) | |
| Ⅲ-3-(2)-② NPO・企業、研究機関などの連携の構築 | 64 | ⑩ | 多様な主体による市民活動の輪づくり事業 | 市民活動推進課 | 市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。 | NPOと企業・地域・大学等との協働件数 | 4件 (R1年度) | 目標 | 5 | 件 | 5 | 件 | 5件 (毎年度) | 3,221 | 2,566 | 2,095 | 2,470 | 大変順調 | 多様な団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を大幅に上回っているため、「大変順調」と判断。 | 大変順調 | 【評価理由】 協働件数が目標を大幅に上回っており、連携の構築が促進されたため、「大変順調」と判断。 【課題】 参加団体へのフォローアップ等を行い、団体間の協働事業の立ち上げ等を支援する必要がある。 | 多様な主体による協働を推進するため、NPOと地域等との関係構築を引き続き支援し、団体間の協働を推進する。 |
| | | | | | | | | 実績 | 15 | 件 | 31 | 件 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 300.0 | % | 620.0 | % | | | | | | | | | | |
| Ⅲ-3-(3)-① 市民参画と協働のための仕組みづくり | 65 | ④ ⑰ | 「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業 | 市民活動推進課 | 協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。 また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。 | NPOとの協働についての研修への参加者数（累計） | 2,146人 (R1年度) | 目標 | 2,250 | 人 | 2,500 | 人 | 2,750人 (R5年度) | 816 | 1,206 | 1,029 | 6,400 | 順調 | NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 協働についての研修への参加者数及び協働件数は目標を達成していることから、市民参画と協働のための仕組みづくりに寄与したと考えられるため、「順調」と判断。 【課題】 多様な主体による協働をさらに推進するため、協働意識の醸成や、協働のための体制づくりを強化する必要がある。 | 協働への理解を深めるセミナーの開催やNPOと地域等との関係構築の支援等、各団体間の自主的な協働の側面支援に引き続き取り組む。 |
| | | | | | | | | 実績 | 2,476 | 人 | 2,540 | 人 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 110.0 | % | 101.6 | % | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 運営改善団体数（累計） | 3団体 (R1年度) | 目標 | 9 | 団体 | 12 | 団体 | 15団体 (R5年度) | 88.9 | % | 83.3 | % | | | | | |
| | | | | | | | | 実績 | 8 | 団体 | 10 | 団体 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 達成率 | 88.9 | % | 83.3 | % | | | | | | | | | | |
| 66 | ⑩ | 多様な主体による市民活動の輪づくり事業 | 市民活動推進課 | 市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。 | NPOと企業・地域・大学等との協働件数 | 4件 (R1年度) | 目標 | 5 | 件 | 5 | 件 | 5件 (毎年度) | 3,221 | 2,566 | 2,095 | 2,470 | 大変順調 | 多様な団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を大幅に上回っているため、「大変順調」と判断。 | 大変順調 | | | |
| | | | | | | | 実績 | 15 | 件 | 31 | 件 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 | 300.0 | % | 620.0 | % | | | | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 / 【Do】 実施 | | | | | | | | | | | | | | 【Check】 評価 / 【Action】 改善 | | | | | | |
|---|-----|-------------------|-------------------------------------|----------------------|--|----------------------------------|---------------------------|----------------|---------------|----------------|--------------------------|--------------------|-------------|---------------------------|------------------|-------|---|--------------|--|--|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 | 主要 事業 所管 課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 (目安) 金額 (千円) | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 (基準値) | R3年度 | | R4年度 | | 中期 目標 | 決算額 (千円) | | | | | | | 予算額 (千円) |
| Ⅲ-3-(3)-② 市民との協働 を推進 できる 市役所 づくり | 67 | ④ ⑰ | NPO・市民活 動促進事業 | 市民 活動 推進 課 | 市民活動の促進 に加え、NPOと行政 の協働を推進する ため、活動や協働 等に関する相談・ 助言、情報提供、 研修・啓発等を実 施する。 | サポートセンター 利用者数 | 29,293 人 (R1年 度) | 目標 20,000 人 | 実績 8,256 人 | 達成率 41.3 % | 20,000 人 (毎年 度) | 16,939 | 17,434 | 16,524 | 19,725 | 順調 | 令和3年度以前に、緊急事 態宣言の発令に伴う臨時休館 等により、大きく減少したサ ポートセンターの利用者数は 回復基調にあり、新規設立 NPO法人数も概ね目標を達成 した。以上のことから、「順 調」と判断。 講座については、引き続き オンライン参加も可能なハイ ブリッド型として講座実施の 維持に努めた。 | 順調 | 【評価理由】 サポートセンター利用者数 は大きく減少しているもの の、その他の目標は概ね達成 しており、市民との協働を推 進していると考えられるた め、「順調」と判断。 | 市民との協働を推進するた め、協働意識向上のための研 修、セミナー等の充実、 NPO・市民活動に関する情報 提供に取り組む。 |
| | | | | | | 新規設立NPO法人 数 | 17法人 (R1年 度) | 目標 15 法人 | 実績 14 法人 | 達成率 93.3 % | 15法人 (毎年 度) | | | | | | | | | |
| | 68 | ④ ⑰ | 「NPOとの協 働によるまち づくり」人材 育成事業 | 市民 活動 推進 課 | 協働に関する理 解を深めるための 研修、協働事業を 実施するために必 要な団体運営力向 上を図るための研 修を実施する。 また、経済的に 自立したNPOの増 加を図るため、資 金調達力や企画力 の向上を図るセ ミナーを実施する。 | NPOとの協働につ いての研修への参 加者数（累計） | 2,146人 (R1年 度) | 目標 2,250 人 | 実績 2,476 人 | 達成率 110.0 % | 2,750人 (R5年 度) | 816 | 1,206 | 1,029 | 6,400 | 順調 | NPOとの協働についての研 修への参加者数が目標を達成 しているため、「順調」と判 断。 | 順調 | 【課題】 市民活動の担い手の育成 や、協働に対する啓発をさら に推進する必要がある。 サポートセンター利用者数 はコロナ禍以前の水準を目指 す。 | |
| | | | | | 運営改善団体数 (累計) | 3団体 (R1年 度) | 目標 9 団体 | 実績 8 団体 | 達成率 88.9 % | 12 団 体 | 10 団 体 | 15団体 (R5年 度) | | | | | | | | |

令和4年度 行政評価の取組結果（市民文化スポーツ局）

| 【Plan】 計画 | | 【Do】 実施 | | 【Check】 評価 | | | | | | | | | | 【Action】 改善 | | | | | | |
|----------------------------|-----|-------------------|-------------------------|--------------|---|-------------------------------|------------------|----------------------|-----------------|----------------------|-------------|-------------|-------------|---------------------------|------------------|-------|--|--------------|---|---|
| 施策番号・施策名 | No. | SDGs ゴール 番号 | 基本計画の施策を構成する 主な事業・取組 | 主要事業 所管課名 | 事業・取組概要 | 事業評価の成果指標（目標・実績） | | | | | R3年度 | R4年度 | | 人件費 （目安） 金額 （千円） | R4年度 事業 評価 | 評価の理由 | R4年度 局施策 評価 | 局施策評価の理由及び課題 | R6年度予算要求に向けた 施策の方向性 | |
| | | | | | | 指標名等 | 現状値 （基準値） | R3年度 | R4年度 | 中期 目標 | 決算額 （千円） | 予算額 （千円） | 決算額 （千円） | | | | | | | |
| IV-4-(1)-② 偉人・先人の 顕彰 | 69 | ④ | 文学館普及研究費 | 文学館 | 北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。 | 入館者数 | 10,741人(H23年度) | 目標 30,000人 | 実績 17,641人 | 30,000人(毎年度) | 31,137人 | 15,592 | 22,486 | 20,575 | 30,950 | 順調 | 家族向けの企画展を開催し、過去最高の入館者数を達成するとともに、目標を上回ったため、「順調」と判断。 | 順調 | 【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の規制も緩和されたため、入館者数が大幅に増加するとともに、満足度においても令和3年度を上回ったため、「大変順調」と判断。 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止による規制が緩和されたことから、より魅力のある企画展の開催や研究事業を企画実施するなど、来館者増及び来館者の満足度向上を図る。 |
| | 70 | ④ | 松本清張記念館研究センター・普及事業 | 松本清張記念館事務局 | 松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。 さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。 | 松本清張記念館の入館者数 | 58,187人(H22年度) | 目標 前年度比(10,453人)増 | 実績 11,973人 | 前年度比増(毎年度) | 27,396人 | 11,430 | 10,522 | 9,927 | 23,250 | 大変順調 | 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による休館がなく、規制も緩和されたため、入館者数が大幅に増加した。また、入場者の満足度においても令和3年度を上回った（R3：87.9%、R4：88.8%）ため、「大変順調」と判断。 | 大変順調 | 【課題】 新型コロナウイルス感染症拡大防止による規制が緩和され入場者数は増加したが、コロナ禍以前の水準には回復していない。そのため、より魅力のある企画展の開催や研究事業を企画実施するなど、若年層や海外も含めた集客を促す仕組みが必要。 | |
| IV-4-(2)-③ 都市イメージの向上 | 71 | ⑧ ⑩ | 映像製作誘致強化関連事業 | 文化企画課 | 映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。 | 地域経済への貢献（直接経済効果） | 100,000千円(H21年度) | 目標 150,000千円 | 実績 140,826千円 | 150,000千円(R1年度以降毎年度) | 集計中 | 16,398 | 27,356 | 25,242 | 32,100 | 大変順調 | 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、新しい生活様式に則った厳格な対策を行いながら、撮影の誘致・支援活動を実施した。 これにより、多くの映画作品の誘致を成功させるとともに、タイのアイドルグループのMVや、フィリピンのドラマのファンツアーなど複数の海外作品等を誘致・支援し、経済効果は概ね目標を達成した。 また、都市ブランド「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合は大きく上回っている。 以上のことから、「大変順調」と判断。 | 大変順調 | 【評価理由】 映像製作誘致強化関連事業は、高い認知度を維持し続けており、また、都市ブランドとして「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合は目標を大きく上回った。 以上のことから、「大変順調」と判断。 【課題】 映像製作誘致強化関連事業は、引き続き感染予防対策を徹底し、市民・ロケ地に安心してもらうしながら撮影支援を行う必要がある。また、今後の旅行需要のさらなる回復に向け、いかに知名度のある海外作品の誘致を行い、本市の魅力を海外に発信し、インバウンドを獲得していくかが重要である。 | 映像製作誘致強化関連事業は、インバウンドの回復も見据え、引き続き国内外の映画等の大規模作品の誘致・支援を進めていく。 |
| | | | | | | 都市ブランド「映画の街・北九州」を広めたいと思う市民の割合 | — | 目標 17.0% | 実績 28.5% | 17.0%(R3年度以降毎年度) | 17.0% | | | | | | | | | |